

## 「Respect for others」

関西学院千里国際中等部 3年 砂田 紗良

私は父の仕事の関係で、3歳の頃から現在まで海外3か国で暮らしてきました。それぞれの国で、現地の学校へ通いましたが、その中でも、ブータンの学校で出会ったローズマリー先生から何度も教えられた言葉が、今でも私の考え方や行動に大きな影響を与えています。

その学校は、ヒマラヤ山脈の東の端、ブータンにある全校生徒30人ほどの小さな学校でした。ブータンは山の中にある小さな王国で、産業も少なく貧しい国ですが、国連など多くの国際協力関係者が働いており、主にその子供たちがこの学校に通っていた為、肌や髪の毛の色が違う色々な国の子供たちと一緒に勉強していました。

そもそも私が物心ついた時には、周りには色々な国の人がいたので、自分自身が周りとは違うことを不思議には感じませんでしたし、深く考えることもありませんでした。

しかし、どこの国でも同じだと思いますがブータンでも学校生活の中で、相手の悪口を言ったりして、トラブルが起きそうになります。そうすると、ローズマリー先生は必ず『Respect for others』と言って、当事者たちに反省を促しました。日本語にすると『相手を尊重しなさい』という意味だと思いますが、『悪口はダメ』という様なその行動自体を注意するのではなく、その行動を起こした根本的な考え方が間違っていることを指摘して、考え直すように促していることに強い印象を受けました。

今、私は新型コロナウイルスの感染拡大によって一時帰国しており、日本の公立中学校に通うことになりましたが、学校生活を過ごす中で、徐々にある違和感を持つようになりました。ブータンでは、自分が授業の中で上手く出来たことや、先生が出す問題に積極的に答えることは、クラスの雰囲気良くなる行動でした。私は日本でも同じようにしていたところ、そのうちクラス内で『自慢ばかり言う子、目立ちたがり屋』と言われるようになりました。その後、『同調圧力』という言葉の意味を知った時、初めて日本とブータンの違いを理解することが出来ました。

しかし、ブータンで知った『Respect for others』と日本で知った『同調圧力』という2つの考え方を体験したことは、私にとって良い経験だったと思っています。

これからの目標として、今後どの国に住んだとしても、『Respect for others』相手への思いやりを忘れなければ自分の心に正直に振る舞っても、トラブルになることは無いかなと思います。この目標が自然と行動できる様になる頃には、世界で新型コロナウイルスの感染が収束し、また、ブータンや他の国にも行き来することが出来る、平和な日常に戻っているといいなと願っています。